

## Q.業界全体の将来、またその中でのKOMORIの展望は？

近年、印刷産業を取り巻く技術環境とその事業領域は大きく変化しており、デジタルネットワーク時代の印刷産業は高度情報化社会において、情報価値産業として重要な地位を占めています。KOMORIは独自の技術により、高品質の製品を世界に供給し続け、さらに印刷のFA化にも成功し、その地位を不動のものとししました。そのような環境の中、更なる飛躍に向けて、今後はヨーロッパ・アメリカを中心とした先進国のみならず、経済新興国への販売強化が重要です。

また、既存のオフセット印刷機械に加えて、これまでの技術やノウハウを生かし、デジタル印刷機械の開発も行っています。業界のリーディングカンパニーであるKOMORIの役割は、今後ますます重要になると考えています。

## Q.KOMORIの求める人物像は？

世界を視野に入れて、周囲を巻き込んだ仕事のできる、自律型人材です。

## Q.KOMORIの知名度は決して高くないと思いますが、なぜ社名をもっと広める様宣伝しないのですか？

自動車や家電製品の様なコンシューマー製品(一般消費財)を生産しているメーカーは社名とその製品を広く一般の人々に知ってもらう必要がありますが、KOMORIは印刷機械および印刷管理システムなどの生産財を生産・販売している産業機械メーカーです。従ってKOMORIのユーザー先は印刷会社様に限られているため、あえてCMを放映する必要がありません。広告宣伝を行うことは難しくありませんが、KOMORIはそのための費用を設備投資に回し、製品の品質アップに努めています。

## Q.KOMORIが開発した製品の広告・宣伝はどの様に行っているのですか？

KOMORIはIGAS(4年に一度日本で開催)とdrupa(4年に一度ドイツで開催)、シカゴショー(アメリカ)、IPEX(イギリス)など、国際的な印刷機材展に向けて新製品の開発に取り組んでいます。さらに国内の中・小規模の展示会やKOMORI独自の展示会に国内外のユーザーをお招きして製品のPRを行っています。

## Q.印刷機械を製造する場合、環境に対する影響について考慮する必要があると思いますが、どの様に取り組んでいるのですか？

近年特にエコロジーに対する関心が高まっていますが、印刷機械を製造する過程においては騒音・振動・煤煙・汚水といった公害をもたらすことはほとんどありません。強いて言えば、部品を加工する際、工作機械は大量の水と切削油を必要としますが、これも最新の污水处理装置によって水と油を完全に分離し、きれいな水だけを排水しています(油は専門の処理業者に委託)。KOMORIではコーポレート・テーマのひとつに「工場環境と印刷機の調和」を掲げており、単に生産性の高い機械ではなく騒音、熱などの問題をクリアした、環境そして職場に優しい機械づくりを心がけています。なお2003年6月には、全社でISOの認証取得を完了しました。

## Q.紙幣印刷機械はどこの国に輸出しているのですか？

91年、ロシアに2台の紙幣印刷機械を輸出したのをはじめ、中国、韓国にも輸出の実績があります。また、95年にインド、96年にナイジェリアへ印刷から裁断、包装までのフルラインを納めました。これらの実績を経て、99年には近代印刷の発祥の地であるドイツへの契約納入に成功。さらに近年では、イギリス、フィリピンにも納入を果たし、その技術力は世界各地で認められています。